

四半期報告書

(金融商品取引法第24条の4の7第1項に基づく報告書)

(第100期第1四半期)

自 2023年4月1日

至 2023年6月30日

四国電力株式会社

香川県高松市丸の内2番5号

第100期第1四半期（自2023年4月1日 至2023年6月30日）

四 半 期 報 告 書

本書は、金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を利用して2023年8月10日に提出したデータに、目次および頁を付して出力・印刷したものであります。

四国電力株式会社

目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営者による財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の分析】	3
3 【経営上の重要な契約等】	6
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
2 【その他】	19
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	20

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年8月10日

【四半期会計期間】 第100期第1四半期(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

【会社名】 四国電力株式会社

【英訳名】 Shikoku Electric Power Company, Incorporated

【代表者の役職氏名】 取締役社長 社長執行役員 長 井 啓 介

【本店の所在の場所】 香川県高松市丸の内2番5号

【電話番号】 (087)821-5061

【事務連絡者氏名】 経理部連結決算チームリーダー 滝 川 孝 治

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区大手町1丁目9番2号
(大手町フィナンシャルシティ グランキューブ19階)

【電話番号】 (03)3517-4591

【事務連絡者氏名】 東京支社業務課長 阿 部 雄 介

【縦覧に供する場所】 四国電力株式会社 徳島支店
(徳島県徳島市寺島本町東2丁目29番地)
四国電力株式会社 高知支店
(高知県高知市本町4丁目1番11号)
四国電力株式会社 愛媛支店
(愛媛県松山市湊町6丁目6番地2)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第99期 第1四半期 連結累計期間	第100期 第1四半期 連結累計期間	第99期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高(営業収益) (百万円)	166,678	181,086	833,203
経常利益又は経常損失(△) (百万円)	4,910	15,498	△22,515
親会社株主に帰属する四半期 純利益又は親会社株主に帰属する 当期純損失(△) (百万円)	2,249	11,804	△22,871
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	9,458	11,881	△13,803
純資産 (百万円)	321,624	310,159	298,312
総資産 (百万円)	1,598,617	1,585,062	1,612,025
1株当たり四半期純利益又は1株 当たり当期純損失(△) (円)	10.93	57.40	△111.19
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	20.0	19.4	18.3

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2 当社は、「株式給付信託(BBT)」を導入し、当該信託口が保有する当社株式を四半期連結財務諸表および連結財務諸表において自己株式として計上している。これに伴い、1株当たり四半期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上、当該信託口が保有する当社株式を期中平均株式の計算において控除する自己株式に含めている。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。

また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、事業等のリスクの重要な変更はない。

2 【経営者による財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績および財政状態の状況

① 経営成績

当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同期に比べ144億7百万円(+8.6%)増収の1,810億86百万円となり、営業費用は、5億86百万円(+0.4%)増加の1,644億26百万円となった。

この結果、営業利益は、前年同期に比べ138億21百万円(+486.8%)増益の166億60百万円となり、経常利益は、前年同期に比べ105億88百万円(+215.6%)増益の154億98百万円となった。

また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、95億55百万円(+424.8%)増益の118億4百万円となった。

セグメントごとの経営成績(セグメント間取引消去前)は、次のとおりである。

[発電・販売事業]

売上高は、卸販売収入は減少したものの、自由料金の燃調上限廃止や規制料金の見直し等に伴い小売販売収入が増加したことなどから、前年同期に比べ192億47百万円(+13.8%)増収の1,590億27百万円となった。

経常損益は、売上高が増収となったことなどから、前年同期に比べ129億20百万円改善の103億52百万円の利益(前年同期は、25億67百万円の損失)となった。

[送配電事業]

売上高は、需給調整収益の減などから、前年同期に比べ83億49百万円(△13.8%)減収の523億49百万円となり、経常利益は、前年同期に比べ11億5百万円(△38.3%)減益の17億79百万円となった。

[情報通信事業]

売上高は、F T T H事業の増などから、前年同期に比べ4億79百万円(+4.3%)増収の116億14百万円となった。

経常利益は、売上高が増収となったものの、減価償却費の増などから、前年同期に比べ34百万円(△1.4%)減益の24億29百万円となった。

[エネルギー事業]

売上高は、L N G販売事業の販売単価の上昇などから、前年同期に比べ12億92百万円(+23.9%)増収の66億92百万円となった。

経常利益は、海外子会社における利益の減などから、前年同期に比べ8億71百万円(△78.0%)減益の2億45百万円となった。

[建設・エンジニアリング事業]

売上高は、請負工事の受注増などから、前年同期に比べ9億56百万円(+8.9%)増収の117億29百万円となり、経常利益は、前年同期に比べ2億90百万円(+57.6%)増益の7億94百万円となった。

[その他]

売上高は、商事業の増などから、前年同期に比べ7億37百万円(+9.8%)増収の82億34百万円となった。

経常利益は、製造事業における利益の減などから、前年同期に比べ4億64百万円(△83.5%)減益の91百万円となった。

②財政状態

(資産)

資産は、現預金が減少したことなどから、前連結会計年度末に比べ269億63百万円（△1.7%）減少の1兆5,850億62百万円となった。

(負債)

負債は、買掛金・未払費用が減少したことなどから、前連結会計年度末に比べ388億10百万円（△3.0%）減少の1兆2,749億3百万円となった。

(純資産)

純資産は、利益の確保などから、前連結会計年度末に比べ118億47百万円（+4.0%）増加の3,101億59百万円となった。

(2) 資本の財源および資金の流動性について

当社の主な資金需要である設備資金については、自己資金および社債・長期借入金により調達している。なお、季節要因などによる短期的な資金需給の調整には、コマーシャル・ペーパーを活用している。

(3) 経営方針、経営環境および対処すべき課題等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針、経営環境および対処すべき課題等について、重要な変更はない。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費は、9億57百万円であり、これは主に発電・販売事業および送配電事業に係るものである。

なお、当第1四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況について、重要な変更はない。

(5) 生産、受注および販売の実績

主たる事業である発電・販売事業および送配電事業の状況は以下のとおりである。

① 需給実績

種別		当第1四半期 連結累計期間	前年同四半期比 (%)	
販売電力量 (百万kWh)		6,901	91.9	
電力供給 (百万kWh)	自社	水力	853	172.7
		原子力	717	37.3
		新エネルギー等	1	142.7
		火力	2,545	107.2
	他社受電 (水力・新エネ再掲)		3,149 (1,912)	101.0 (112.0)
	損失電力量等		△364	92.4

(注) 1 四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある。

2 決算日において未確定であるインバランス電力量等は含めていない。

② 販売実績

種別		当第1四半期 連結累計期間	前年同四半期比 (%)	
販売電力量 (百万kWh)	小売販売	電灯	1,546	95.1
		電力	3,460	93.8
		計	5,006	94.2
	卸販売		1,895	86.2
	合計		6,901	91.9
料金収入 (百万円)	小売販売	電灯	41,945	111.5
		電力	86,589	137.2
		計	128,534	127.6
	卸販売		22,519	61.8
	合計		151,054	110.1

(注) 1 販売電力量は、四捨五入の関係で、合計が合わない場合がある。

2 決算日において未確定であるインバランス電力量等は含めていない。

3 料金収入の電灯および電力には、「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」に基づき実施される「電気・ガス価格激変緩和対策」により受領する補助金を含んでいる。

(6) 主要な設備

(発電・販売事業)

当第1四半期連結累計期間において完成した設備

区分	発電所名	所在地	認可出力 (kw)	運転開始年月
汽力発電設備	西条発電所1号機 (リブレース)	愛媛県西条市	500,000	2023年6月

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	772,956,066
計	772,956,066

② 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2023年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	207,528,202	207,528,202	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株である。
計	207,528,202	207,528,202	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日	—	207,528,202	—	145,551	—	3,598

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日(2023年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしている。

① 【発行済株式】

2023年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,500	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 2,831,600	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 203,546,600	2,035,466	—
単元未満株式	普通株式 1,145,502	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	207,528,202	—	—
総株主の議決権	—	2,035,466	—

- (注) 1 完全議決権株式(その他)の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式1,600株(議決権16個)および株式給付信託(BBT)に係る信託口が保有する株式248,200株(議決権2,482個)が含まれている。
- 2 単元未満株式には、当社所有の自己株式15株および株式会社四電工の相互保有株式81株、四電エンジニアリング株式会社の相互保有株式48株、四国計測工業株式会社の相互保有株式4株並びに四電ビジネス株式会社の相互保有株式12株が含まれている。

② 【自己株式等】

2023年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 四国電力株式会社	香川県高松市 丸の内2番5号	4,500	—	4,500	0.00
(相互保有株式) 株式会社四電工	香川県高松市 花ノ宮町2丁目 3番9号	1,764,000	—	1,764,000	0.85
(相互保有株式) 四電エンジニアリング 株式会社	香川県高松市 上之町3丁目1番4号	864,300	—	864,300	0.42
(相互保有株式) 四国計測工業株式会社	香川県仲多度郡 多度津町大字南鴨 200番地1	191,300	—	191,300	0.09
(相互保有株式) 四電ビジネス株式会社	香川県高松市 亀井町7番地9	12,000	—	12,000	0.01
計	—	2,836,100	—	2,836,100	1.37

- (注) 株式給付信託(BBT)に係る信託口が保有する株式248,200株については、上記の自己株式等に含まれていない。

2 【役員の状況】

該当事項なし。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づき、「電気事業会計規則」(昭和40年通商産業省令第57号)に準じて作成している。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
固定資産	1,287,917	1,287,546
有形及び無形固定資産	988,374	987,366
水力発電設備	57,136	57,311
汽力発電設備	61,909	154,105
原子力発電設備	176,075	173,577
送電設備	113,997	113,438
変電設備	83,232	82,969
配電設備	204,105	204,858
その他の固定資産	100,507	105,369
建設仮勘定及び除却仮勘定	118,715	22,503
原子力廃止関連仮勘定	36,803	35,720
使用済燃料再処理関連加工仮勘定	35,891	37,511
核燃料	89,735	90,346
装荷核燃料	6,568	12,644
加工中等核燃料	83,166	77,701
投資その他の資産	209,807	209,833
長期投資	60,403	61,300
関係会社長期投資	91,565	92,253
繰延税金資産	37,343	35,627
退職給付に係る資産	10,382	10,541
その他	11,004	10,941
貸倒引当金	△891	△832
流動資産	324,108	297,516
現金及び預金	105,954	66,902
受取手形、売掛金及び契約資産	92,649	78,895
リース債権及びリース投資資産	16,546	16,721
棚卸資産	59,974	50,251
その他	49,371	85,156
貸倒引当金	△388	△410
資産合計	1,612,025	1,585,062

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
固定負債	1,059,216	1,067,732
社債	396,992	396,992
長期借入金	463,700	472,200
債務保証損失引当金	8,384	9,109
退職給付に係る負債	21,711	21,566
資産除去債務	130,494	130,775
その他	37,933	37,087
流動負債	254,096	206,458
1年以内に期限到来の固定負債	90,282	61,820
コマーシャル・ペーパー	—	25,000
支払手形及び買掛金	61,910	39,142
未払税金	7,851	5,390
債務保証損失引当金	152	429
その他	93,900	74,674
特別法上の引当金	400	712
濁水準備引当金	400	712
負債合計	1,313,713	1,274,903
純資産の部		
株主資本	279,733	291,537
資本金	145,551	145,551
資本剰余金	3,598	3,598
利益剰余金	134,023	145,828
自己株式	△3,440	△3,441
その他の包括利益累計額	16,054	16,080
その他有価証券評価差額金	125	436
繰延ヘッジ損益	8,395	8,084
為替換算調整勘定	7,368	7,352
退職給付に係る調整累計額	165	207
非支配株主持分	2,524	2,541
純資産合計	298,312	310,159
負債純資産合計	1,612,025	1,585,062

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
営業収益	166,678	181,086
電気事業営業収益	146,001	159,585
その他事業営業収益	20,677	21,500
営業費用	163,839	164,426
電気事業営業費用	146,343	146,244
その他事業営業費用	17,496	18,181
売上原価	14,220	15,058
販売費及び一般管理費	3,275	3,122
営業利益	2,839	16,660
営業外収益	3,982	1,515
受取配当金	419	370
受取利息	164	177
為替差益	2,548	360
持分法による投資利益	558	215
その他	291	391
営業外費用	1,911	2,677
支払利息	1,475	1,572
有価証券評価損	2	3
債務保証損失引当金繰入額	—	1,001
その他	433	99
経常利益	4,910	15,498
繰上準備金引当又は取崩し	△308	312
繰上準備金引当	—	312
繰上準備金引当取崩し(貸方)	△308	—
税金等調整前四半期純利益	5,218	15,186
法人税等	2,912	3,331
四半期純利益	2,305	11,854
非支配株主に帰属する四半期純利益	56	50
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,249	11,804

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	2,305	11,854
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	77	164
繰延ヘッジ損益	3,922	471
為替換算調整勘定	1,862	146
退職給付に係る調整額	△162	44
持分法適用会社に対する持分相当額	1,451	△800
その他の包括利益合計	7,152	26
四半期包括利益	9,458	11,881
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	9,401	11,830
非支配株主に係る四半期包括利益	56	50

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用は、税引前四半期純利益に見積実効税率を乗じるなど簡便な方法により算定している。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

(1) 借入金に係る保証債務

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
・日本原燃㈱ ㈱日本政策投資銀行ほかからの借入金に対する 連帯保証債務	37,962百万円	37,693百万円
・フーイエン・ティーディーピー・ジョイント・ ストック・カンパニー アジア開発銀行ほかからの借入金に対する保証 債務	—	3,509
・備前雲の上(同) ㈱SBI新生銀行からの借入金に対する連帯保証債 務	—	2,250
・ラス・ギルタス・パワー・カンパニー ㈱国際協力銀行ほかからの借入金に対する保証 債務	1,041	1,130
・アル・サワディ・パワー・カンパニー クレディ・アグリコル・コーポレート・アン ド・インベストメント・バンクほかからの借入 金に対する保証債務	787	855
・アル・バティナ・パワー・カンパニー クレディ・アグリコル・コーポレート・アン ド・インベストメント・バンクほかからの借入 金に対する保証債務	747	811
・従業員 従業員の持家財形制度による㈱みずほ銀行ほか からの借入金に対する連帯保証債務	5,140	4,891
計	45,681	51,143

(2) 取引の履行に係る保証債務

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
・アラブ首長国連邦(UAE)シャルジャ首長国ハム リヤ火力発電事業 シャルジャ電力・水庁との電力販売契約の履行 に対する保証債務ほか	2,002百万円	2,173百万円
・ベトナム国ブンアン2石炭火力発電事業 ベトナム商工省とのBOT契約の履行に対する保証 債務	1,121	1,217
・坂出バイオマス発電事業 丸紅㈱との燃料売買契約の履行に対する保証 債務	901	978
計	4,025	4,370

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費及び核燃料減損額を含む。)は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	13,732百万円	15,320百万円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

配当金支払額

2022年6月28日の定時株主総会で、次のとおり決議している。

・普通株式の配当に関する事項

(イ)配当金の総額	3,112百万円
(ロ)配当の原資	利益剰余金
(ハ)1株当たりの配当額	15円
(ニ)基準日	2022年3月31日
(ホ)効力発生日	2022年6月29日

(注) 配当金の総額には、株式給付信託(BBT)に係る信託口が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれている。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

配当金支払額

該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	電気事業		情報通信 事業	エネルギー 事業	建設・エン 지니어リン グ事業	計				
	発電・販売 事業	送配電 事業								
売上高										
外部顧客への 売上高	123,296	22,704	9,150	4,591	4,849	164,592	2,086	166,678	—	166,678
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	16,483	37,993	1,985	808	5,923	63,194	5,410	68,605	△68,605	—
計	139,779	60,698	11,135	5,400	10,772	227,786	7,496	235,283	△68,605	166,678
セグメント利益 又は損失(△)	△2,567	2,885	2,463	1,116	503	4,402	556	4,958	△47	4,910

(注) 1 「その他」は、業務の種類を勘案して区分した事業セグメントのうち、報告セグメントに含まれていない製造事業、商事業、不動産事業及び研究開発事業である。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△47百万円は、セグメント間取引消去である。

3 セグメント間取引消去後のセグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致している。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	電気事業		情報通信 事業	エネルギー 事業	建設・エン 지니어リン グ事業	計				
	発電・販売 事業	送配電 事業								
売上高										
外部顧客への 売上高	143,582	16,002	9,058	5,845	4,792	179,281	1,804	181,086	—	181,086
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	15,444	36,346	2,556	846	6,937	62,131	6,429	68,561	△68,561	—
計	159,027	52,349	11,614	6,692	11,729	241,413	8,234	249,648	△68,561	181,086
セグメント利益	10,352	1,779	2,429	245	794	15,601	91	15,692	△193	15,498

(注) 1 「その他」は、業務の種類を勘案して区分した事業セグメントのうち、報告セグメントに含まれていない製造事業、商事業、不動産事業及び研究開発事業である。

2 セグメント利益の調整額△193百万円は、セグメント間取引消去である。

3 セグメント間取引消去後のセグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致している。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	電気事業		情報通信事業	エネルギー事業	建設・エンジニアリング事業	計
	発電・販売事業	送配電事業				
小売販売収入	100,175	579	—	—	—	100,754
卸販売収入	22,805	13,635	—	—	—	36,440
その他収入	266	6,383	8,915	4,089	4,822	24,476
計	123,246	20,597	8,915	4,089	4,822	161,671
その他の源泉から生じる収益	50	2,107	234	501	26	2,920

(注) 金額は外部顧客への売上高を表示している。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	電気事業		情報通信事業	エネルギー事業	建設・エンジニアリング事業	計
	発電・販売事業	送配電事業				
小売販売収入	110,361	156	—	—	—	110,518
卸販売収入	14,880	7,639	—	—	—	22,519
その他収入	258	5,429	8,778	5,235	4,765	24,467
計	125,500	13,226	8,778	5,235	4,765	157,506
その他の源泉から生じる収益	18,082	2,776	280	609	26	21,775

(注) 1 金額は外部顧客への売上高を表示している。

2 その他の源泉から生じる収益には、「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」に基づき実施される「電気・ガス価格激変緩和対策」により受領する補助金を、発電・販売事業に18,001百万円、送配電事業に14百万円、エネルギー事業に140百万円含んでいる。

(表示方法の変更)

前第1四半期連結累計期間において、「その他収入」として一括で表示していた「その他の源泉から生じる収益」は、重要性が増したため、区分掲記している。この表示方法の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間の内訳の組替えを行っている。

この結果、前第1四半期連結累計期間において、「発電・販売事業」で「その他収入」として一括で表示していた316百万円は、「その他収入」266百万円、「その他の源泉から生じる収益」50百万円、「送配電事業」で「その他収入」として一括で表示していた8,490百万円は、「その他収入」6,383百万円、「その他の源泉から生じる収益」2,107百万円、「情報通信事業」で「その他収入」として一括で表示していた9,150百万円は、「その他収入」8,915百万円、「その他の源泉から生じる収益」234百万円、「エネルギー事業」で「その他収入」として一括で表示していた4,591百万円は、「その他収入」4,089百万円、「その他の源泉から生じる収益」501百万円、「建設・エンジニアリング事業」で「その他収入」として一括で表示していた4,849百万円は、「その他収入」4,822百万円「その他の源泉から生じる収益」26百万円、「計」で「その他収入」として一括で表示していた27,397百万円は、「その他収入」24,476百万円、「その他の源泉から生じる収益」2,920百万円にそれぞれ組替えている。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 6 月 30 日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 6 月 30 日)
1 株当たり四半期純利益	10円93銭	57円40銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	2,249	11,804
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	2,249	11,804
普通株式の期中平均株式数(千株)	205,724	205,647

(注) 1 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 1 株当たり四半期純利益の算定上、株式給付信託(BBT)に係る信託口が保有する当社株式については、期中平均株式数の計算において控除する自己株式数に含めている(前第 1 四半期連結累計期間177千株、当第 1 四半期連結累計期間248千株)。

2 【その他】

(重要な訴訟事件等)

伊方発電所運転差止訴訟(松山地裁)

当社を被告とする伊方発電所3号機の運転差止めを求める訴訟が松山地方裁判所に6次(提訴は、第1次訴訟が2011年12月、第2次訴訟が2012年3月、第3次訴訟が2013年8月、第4次訴訟が2014年6月、第5次訴訟が2019年3月、第6次訴訟が2022年10月)にわたって提起されており、現在、係争中である。

伊方発電所運転差止訴訟(広島地裁)

当社を被告とする伊方発電所1～3号機の運転差止め及び慰謝料(使用済燃料全部が搬出されるまで原告1名当たり1万円/月)の支払いを求める訴訟が、広島地方裁判所に9次(提訴は、第1次訴訟が2016年3月、第2次訴訟が2016年8月、第3次訴訟が2017年4月、第4次訴訟が2017年11月、第5次訴訟が2018年11月、第6次訴訟が2019年11月、第7次訴訟が2020年10月、第8次訴訟が2021年8月、第9次提訴が2022年6月)にわたって提起されており、現在、係争中である。

伊方発電所運転差止訴訟(大分地裁)

当社を被告とする伊方発電所3号機の運転差止めを求める訴訟が、大分地方裁判所に4次(提訴は、第1次訴訟が2016年9月、第2次訴訟が2017年5月、第3次訴訟が2018年5月、第4次訴訟が2019年7月)にわたって提起されており、現在、係争中である。

伊方発電所運転差止訴訟(山口地裁岩国支部)

当社を被告とする伊方発電所3号機の運転差止めを求める訴訟が、2017年12月、山口地方裁判所岩国支部に提起されており、現在、係争中である。

伊方発電所運転差止訴訟(高松地裁)

当社を被告とする伊方発電所3号機の運転差止めを求める訴訟が、2021年10月、高松地方裁判所に提起されており、現在、係争中である。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年8月9日

四国電力株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

高松事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 久保 誉 一

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 越 智 慶 太

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池 田 哲 也

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている四国電力株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、四国電力株式会社及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書原本は四半期報告書提出会社が別途保管している。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。